

文学史テスト

▼文学潮流の確認

次の文章を読み、空欄（ ）に入る最も適切な語句を答えなさい。なお、同じものが入る場合もあります。

日本の近代文学は、明治維新後の西洋文化の流入と共に大きく動き出しました。初期には、（１）がドイツ留学の経験を基に『舞姫』などを発表し、近代的な自我や（２）的な感受性を描きました。

その後、社会の現実や人間の暗部をありのままに描こうとする自然主義文学が台頭します。島崎藤村の『破戒』や田山花袋の『蒲団』などがその代表例です。

この時代、（３）と（４）は、近代知識人の苦悩や日本の近代化がもたらす問題を深く問い、日本近代文学の二大巨頭と称されました。夏目漱石は『こころ』『吾輩は猫である』などを、森鷗外は歴史小説なども手掛けました。

自然主義への反動や、より芸術的な美を追求する流れとして、（５）が登場します。永井荷風や（６）らが中心となり、官能美や江戸文化への回帰などを示しました。谷崎潤一郎の初期の作品『刺青』などが挙げられます。

大正期に入ると、人道主義や理想主義、個性の尊重を掲げる（７）が文壇の中心的な存在となります。（８）や（９）らが同人誌『白樺』に集い、後の私小説にも繋がる自己肯定的な作風を展開しました。

同じく大正期には、東京帝国大学系の同人誌『新思潮』から多くの才能が登場しました。（１０）や（１１）らがこれにあたり、理知的で技巧的な作風が特徴です。芥川龍之介は『（１２）』『（１３）』などで古典に題材を取りつつ、近代的なテーマを描きました。

大正末期から昭和初期にかけては、社会主義思想の影響を受け、労働者階級の現実や資本主義社会の矛盾を描くプロレタリア文学が隆盛しました。小林多喜二の『蟹工船』や徳永直の『太陽のないう街』などが代表作です。

関東大震災後、都市文化の発展と共にモダニズム文学が興ります。（１４）や（１５）らは、映画的な手法や新しい感覚を取り入れた表現を試み、（１６）と呼ばれました。川端康成の初期の作品『伊豆の踊子』などがこれに含まれます。

同時期には、新興芸術派など、モダニズムの中でもより前衛的・実験的な芸術表現を目指すグループも活動しました。

また、西欧の心理主義文学の影響を受け、人間の深層心理を探求しようとする新心理主義の動きも見られました。(17)の『聖家族』などが挙げられます。

昭和十年代に入り戦争が近づく、文学活動は次第に制限され、戦時下の文学と呼ばれる国策に沿った作品も多くなりました。一方で、時局とは距離を置き、自身の芸術を追求する作家もいました。

敗戦後、戦後の文学は新たな出発を迎えます。戦争体験や社会の混乱、新しい価値観を模索する多様な作品が生まれます。野間宏や武田泰淳などの第一次戦後派、(18)や安部公房などの第二次戦後派が登場しました。(19)や(20)らは(21)と呼ばれ、既成道徳への反発や人間の弱さを描き、強い共感を呼びました。

昭和三十年代(一九五〇年代後半)には、第三の新人と呼ばれる新しい世代が登場します。吉行淳之介、安岡章太郎、遠藤周作らがこれにあたり、都市的な感性や個人の内面を重視する作品を書きました。

昭和四十年代(一九六〇年代後半～一九七〇年代)には、高度経済成長のひずみや社会との違和感を背景に、自己の内面を深く見つめる内向の世代と呼ばれる作家たちが注目されました。古井由吉、黒井千次らがその代表です。(22)もこの時期、社会と個人の間を問い続けました。

昭和五十年代(一九七五年～)以降は、村上春樹や村上龍、よしもとばなななどが登場し、現代社会の感覚や消費文化、グローバルな視点などを取り入れた新しい文学が展開され、現代に至っています。

選択肢

- ア 無頼派 イ 夏目漱石 ウ 白樺派 エ 鼻 オ 坂口安吾
- カ 耽美派 キ 太宰治 ク 菊池寛 ケ 羅生門 コ 武者小路実篤
- サ 森鷗外 シ 新感覚派 ス 堀辰雄 セ 芥川龍之介 ソ 三島由紀夫
- タ 谷崎潤一郎 チ 志賀直哉 ツ 横光利一 テ 川端康成 ト 浪漫主義
- ナ 大江健三郎

解答欄

21	16	11	6	1	22	17	12	7	2
						18	13	8	3
					19	14	9	4	
					20	15	10	5	

▼文学史の確認

STEP 1 基本知識の確認問題

- 問一 森鷗外がドイツ留学の経験を基に書いた、近代的な自我の問題を描いた代表作は何ですか。
- 問二 夏目漱石の代表作として適切でないものを次から一つ選びなさい。
- ア 『吾輩は猫である』 イ 『こころ』 ウ 『舞姫』 エ 『坊っちゃん』
- 問三 正岡子規が俳句や短歌の表現を変えるために打ち出した、「ありのままに写す」という考え方を何といますか。
- 問四 大正時代に活躍した「白樺派」の代表的な作家を一人答えなさい。
- 問五 芥川龍之介の代表作を次から一つ選びなさい。
- ア 『舞姫』 イ 『羅生門』 ウ 『雪国』 エ 『人間失格』

STEP 2 作家・潮流の関係性の理解

- 問一 夏目漱石と学生時代からの友人で、松山で共に過ごしたこともある俳人は誰ですか。
- 問二 芥川龍之介が師事した作家は誰ですか。
- 問三 横光利一や川端康成らが中心となり、感覚的な新しい描写を試みた昭和初期の文学潮流を何といますか。
- 問四 『痴人の愛』や『細雪』で知られ、「耽美派」を代表する作家は誰ですか。
- 問五 日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した作家は誰ですか。

STEP 3 芥川龍之介を中心としたネットワーク

- 問一 芥川龍之介の親友で、雑誌『文藝春秋』を創刊し、芥川賞・直木賞を設立した人物は誰ですか。
- 問二 夏目漱石の弟子であり、芥川龍之介とも交流があった随筆家は誰ですか。
- 問三 太宰治が師と仰ぎ、その文壇入りを支えたと言われる作家は誰ですか。
- 問四 芥川龍之介を尊敬し、その洗練された文体が自身の作品にも影響しているとされる、戦後に『金閣寺』などを書いた作家は誰ですか。
- 問五 芥川賞の創設に関わった人物と、その初期受賞者として本文中で挙げられている人物の組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。
- ア 芥川龍之介 ― 石川達三 イ 菊池寛 ― 井上靖
ウ 夏目漱石 ― 川端康成 エ 森鷗外 ― 三島由紀夫

STEP 4 エピソード問題

問一 次のエピソードのAとBに当てはまる作家を答えなさい。

AとBは同じ年に生まれた親友であり、互いの才能を認め合っていました。二人は東京大学予備門で出会い、寄席通いを通じて親交を深めました。明治二十八年、松山に赴任していたAの下宿「愚陀仏庵」で五十二日間共に暮らし、俳句などを通じて文学的な交流を深め、Bの俳句革新運動をAが支えるなど、後の日本近代文学に大きな影響を与えました。Bの闘病中、ロンドン留学中のAからのユーモアあふれる長い手紙は、Bの大きな支えとなりました。Bは三十四歳で亡くなり、Aはその後文豪として活躍しました。二人のゆかりの地である松山では、俳句ポストや俳句甲子園、坊っちゃん文学賞など、「ことば」文化が今も息づいています。

問二 次のエピソードのAとBに当てはまる作家を答えなさい。

内田百閒にとって、Aと、同じく作家のBは、特別な存在でした。百閒のAへの敬愛は深く、中学時代にAの小説を読んで以来、心酔していました。上京後は念願叶ってAの門下生となり、その存在を敬い慕っていました。師弟関係を示すエピソードとして、百閒が生活に困窮した際にAが快く借金を応じた話があります。また、百閒はAの形見の背広を譲り受けると、それを特別なものとして飾るのではなく、普段着として愛用し、着古して最後には燃やしてしまいました。この行動からは、百閒がAを遠い偉人としてではなく、身近で尊敬すべき師匠として捉えていたことがええます。

さらに、百閒は同じA門下の仲間であるBとも交流がありました。Bからドイツ語教師の職を紹介してもらったり、Bが自ら命を絶つ直前に面会したりするなど、同門ならではの関係性があつたといわれています。

問三 次のエピソードのAとDに当てはまる作家を答えなさい。

一九三五年、第一回芥川賞の候補となったAの小説「逆行」は、石川達三の「蒼氓」に敗れ、受賞を逃しました。

この結果に激怒したAは、選考委員の一人であったBに対して本人宛の文章を雑誌に発表。落選させたことへの強い怒りを表明しました。

さらにAは、芥川賞創設者であるCに対しても、「無難な作品に決まってよかったと安心してやるだろう」と痛烈な皮肉を浴びせました。Dを異常なほど敬愛していたAは、「Dを少し可哀そうに思った」とも記し、尊敬するDの名を冠した賞の第一回受賞作が地味な作品であることへの不満も滲ませています。デビュー作『晩年』も刊行前で、四度の自殺未遂を繰り返していた時期に、このような過激な文章を公にしたAの行動からは、並外れた自己肯定感と自信、そして行動力がうかがえます。

問四 次のエピソードのAとCに当てはまる作家を答えなさい。

Aは戦後、『斜陽』でベストセラー作家となり転換点を迎えましたが、文壇の評価は厳しいものでした。特に「小説の神様」と呼ばれたBは、Aの作品を「嫌いだ」「つまらない」と公然と批判し、かつてAが芥川賞選考で反発したCもこれに同調しました。

これに対しAは、随筆『如是我聞』で激しく反論しました。「老大家」とこき下ろし、「家庭のエイズム」に安住していると批判したのです。太宰にとって、先輩作家からの批判は、後輩の苦しみを理解しない傲慢さであり、「家庭」を絶対視する日本の価値観への違和感の象徴でもあったのです。

「先輩は後輩の苦しみを理解しようとしなさい」という後輩としての抗議にとどまらず、様々な問いを投げかけました。後にAは自ら命を絶ちましたが、その言葉は、既存の価値観になじめない人々を今も励まし続けています。

問五 次のエピソードのAとBに当てはまる作家を答えなさい。

AはBを公然と嫌悪していました。これは、自身が若い頃の病弱さを筋トレなどで克服しようとした経験に基づくと考えられます。AのBへの嫌悪は、自身が抑圧した弱さ（自己嫌悪）をBに投影したためではないかと言われています。両者は「日本社会が求める男性像」への違和感を抱えていましたが、Aは克服を、Bは表現を選びました。AがBに直接「嫌いなんです」と伝えたエピソードもあります。AのBに対する嫌悪は、同族嫌悪であり、自身の弱さを見るような複雑な感情だったのかもしれませんが。

問六 次のエピソードのAとBに当てはまる作家を答えなさい。

Aは日本の近現代文学史において特別な存在であり、作家、評論家、ボディビルダー、政治活動家など多彩な顔を持ちました。良家に生まれ学習院・東大を卒業後、大蔵省官僚となるも作家の道を諦めきれず、『花ざかりの森』で文壇デビュー。このデビューには、当時すでに大家であったBに原稿が渡り、高く評価されたことがきっかけとなりました。その後、二人の間には師弟関係ともいえる親交が生まれました。

Aは『仮面の告白』で再デビュー後、『潮騒』『金閣寺』などの傑作を発表。その才能は国内にとどまらず、CやBらと共に世界的な評価を得て、ノーベル文学賞候補にも複数回ノミネートされました。日本文学者ドナルド・キーン氏による英訳紹介も、その国際的評価を高める一因となりました。キーン氏は一九六三年の報告書で、C、Bを高く評価しつつ、Aを「最高の作家」としながらも若さを理由に、受賞はCやBの後が妥当との意見を持っていました。A自身も、CとBをノーベル賞に推薦した経験があります。結果的に一九六八年にBが日本人初のノーベル文学賞を受賞しました。

Aの作風は、豊富な語彙と比喻を駆使した絢爛豪華な文体が特徴で、「美」をテーマにした作品が多くあります。一方で、幼少期の病弱さへのコンプレックスから肉体改造に励み、ボディビルダーとしても知られるようになります。

一九六〇年代後半からは政治活動に傾倒し、憲法改正や自衛隊の国軍化を主張する民間防衛組織「楯の会」を結成。一九七〇年、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地でクーデターを呼びかける演説の後、四十五年の生涯を閉じました。

解答

▼明治～昭和後期以降の文学史

21	16	11	6	1
ア	シ	ク	タ	サ
22	17	12	7	2
ナ	ス	ケ	ウ	ト
	18	13	8	3
	ソ	エ	チ	イ
	19	14	9	4
	キ	ツ	コ	サ
	20	15	10	5
	オ	テ	セ	カ

▼文学史の確認

STEP1 基本知識の確認問題

- 問一 舞姫 問二 ウ 問三 写生 問四 志賀直哉、武者小路実篤、有島武郎 問五 イ

STEP2 作家・潮流の関係性の理解

- 問一 正岡子規 問二 夏目漱石 問三 新感覚派 問四 谷崎潤一郎 問五 川端康成

STEP3 芥川龍之介を中心としたネットワーク

- 問一 菊池寛 問二 内田百閒 問三 井伏鱒二 問四 三島由紀夫 問五 イ

STEP4 エピソード問題

- 問一 A 夏目漱石 B 正岡子規
 問二 A 夏目漱石 B 芥川龍之介
 問三 A 太宰治 B 川端康成 C 菊池寛 D 芥川龍之介
 問四 A 太宰治 B 志賀直哉 C 川端康成
 問五 A 三島由紀夫 B 太宰治
 問六 A 三島由紀夫 B 川端康成 C 谷崎潤一郎